



# グランプリ

## こども達の園庭

### エンジェル・フィールド

株式会社いずみガーデン 和泉玲実様



デザインの工夫点

和泉智樹・玲実

子ども達を飽きさせないように、さまざまな小さな庭を導線で結び、一つのお庭にしました。キッズカフェには父母が集まって作ったカラフルなテーブルとイスを置いて、おやつやランチを食べています。土の広場では泥遊び、のっばらには焚き木スペースがあります。鳥の巣広場は秘密基地のようになっていて、お花の小道にはさまざまな花の中をアップダウンのある小道を天使たちが走り抜けていきます。大きな築山の上に行くと、お庭を見渡すこともでき、お迎えに来たお父さん、お母さんを見つけることもできます！お庭を作らせていただいた「エールこども園の園長」がこのコンセプトを通してぜひこの園庭を知って欲しいと書いてくださったお手紙がありますので、まずはそれを紹介させていただきます。

『園庭 ANGEL FIELD(エンジェル・フィールド)へようこそ』

エールこども園 園長 岩崎安貴子

開園して17年目、私たちの夢が叶った庭が2020年に完成いたしました。エールこども園の立地環境は、農地の一角に建設され、広大な敷地が市内でも自慢の保育園です。しかし日陰や緑がない上に大型遊具があり常に危険を回避することに保育士も気を張ること、園庭の土には細かいガラ

スが混じった砂が敷かれていたため、子ども達が転ぶと擦り傷もひどくなるほどでした。このような園庭をどうにかできないかと相談させていただきました。園庭づくりには資金を始め、環境づくりには長い間困難を抱えながら過ごしてきた経緯がありました。庭(園庭)作りにおいて私の中でイメージしていたことはフィンランドで生活している人達の仕事と日常のONとOFFを森に行くことで自分の時間を大切にしている生活を実現できないかと考え、いつしか「森を創りたい」という思いが強くなっていました。この思いを実現してくださったのがいずみガーデンのみさんでした。約2か月かけてできた庭(園庭)は芝生の中で、転んで傷にならない、子ども達が天使のように飛び回る、そしてその様子を見ている大人達が癒やされるそんな場所になってほしいという願いを含めANGEL FIELDと名付けました。この庭で木々の美しさと光と風、水、火、鳥の鳴き声、虫たちの隠れ家…さまざまな経験ができる癒やしの空間となりました。人はみんな自然の中の好きな場所を自由に歩ける権利があります。この時代だからこそ、自分に戻れる時間や空間が必要だと感じています。そんな場所として、こども園に通う親子や地域の子育て家庭、また地域の人達が癒やされる、また安心して集えるFIELDになれ

いずみガーデン

和泉玲実

ばと思いい、今後もワークショップや楽しい活動を考えると心が踊り出します。乳幼児期に情緒豊かな環境を体験したことがその後の人生を豊かにすると信じて、これからも森創りを進めてまいります。天使の集う庭にいつか足を運んでください。

私たちがまた、子ども達の通うこども園の横にお庭を作ることができて、とても幸運なことでした。子ども達だけでなく、先生たちの笑顔もたくさん見ることが出来ます。そこに勤める大人たちの笑顔を作る大切さのプロセスはアメリカでも経験があります。アメリカの造園会社に居た時は、ホスピスの庭、理由があつて親と離れて暮らす子ども達の施設の庭、刑務所の庭などの造成に関わってききましたが、ここでもまた利用者とその周りに集う先生、お医者さん、看護師さんなど働く方みんなが癒やされる場所を作ることと施設全体が癒やされるという経験から生まれたものをデザインにも生かしています。

ワークショップやこども園のお祭りでは一緒に花を植える等の活動もさせていただいており、こういった継続性のある「仕掛けある庭づくり」で生まれた笑顔がまた人の活力となり、地域を良い方向へ動かしていく原動力となると思っています。



#### 私たちのお手伝いしている ガーデン・ラボ

このお庭で出た素材や、普段の造園仕事で出た枝などを使って手づくりで工作をするお手伝いをしています。最初だけでもお手伝いすることで、先生たちがどんどん案を出し合い、お庭でのイベントが増えていきました。



棒を使ってティーピー・テント (この周りに豆を置かせます)



剪定枝を輪切りにしてペンダントに



父母が集まり、子ども用のイスとテーブル作り



子ども達、先生と一緒にお花の植栽

#### 講評



理事長 高岡 伸夫

日本において幼少期の子供の教育方法が、先進的な保育園や幼稚園などで、さまざまな角度から見直しが進んできています。例えば、野菜を食べない子供が多いというので、キノコや野菜の栽培をすることによって、子供たちが興味を持ち、今までそれらを口にしない子供が喜んで食べたという事例を聞いています。

また、土や自然から学べる環境、ビオトープのような環境をつくる動きも出てきています。本作品「エンジェルフィールド」はとても研究されています。

森、自然、土、植物も含め、健康や情操教育、人やすべての生き物との出会いや交わりを空間・環境をつくり、それを具体的にデザイン設計し、見事な実例として拝見し、大変な評価です。

スウェーデンでは小学校に入るまでに読み書きができることよりも、外でたくさん遊ぶことのほうが大切だとされています。例えば、子供たちは、雨の日も合羽を着て、森へ行きます。雨の日には雨の日ならではの自然の楽しみ方が

あるからです。

かつての日本も、「外に行つて遊んできなさい」という教育を受け、野原を駆け回り、秘密基地を作り、季節の花や、自然の食べ物を採り、虫や鳥と戯れるそんな思い出が今の私たちを作っています。「命を学び、自然を学び、季節やすべてのものに感謝する」ということを体や日頃の教育で学べる、このような先進的な園庭を教育に取り込まれた事例に、感動と、少しでも多くの方に広げていけることができるという気持ちでいっぱいです。当協会を通じて、多くの方に紹介できれば幸いです。



6



4



1



2



7



5

1. きしゃポッポ
2. とりのすひろば
3. はたけで虫とり
4. エンジェルフィールドの森
5. 庭でワークショップ
6. お庭のものを使ってガーデンラボ
7. ファイヤーびっと
8. 親子でキッズカフェ



8



3

豆畑の中にあるお庭、人は自然を本能で求めている。Biophilia and Hearing (バイオフィリアとヒーリング) という考えから自然素材で自然のラインを使ってデザインされています。



■ 保育園で行った活動が地元雑誌に掲載されました。ぜひ全国の方にもこの庭を見てもらえますように☆